

社会科の窓 VOL 1 1

令和3年10月21日

京都市立稲荷小学校 校長 吉山 茂樹

地域の農業 or 地域の工業～（3年）

実は、今から1ヶ月前ぐらいに、次の「社会科の窓」で、6年生の同和問題指導を紹介したいと思っていました。ところが、忙しく過ごしているうちに、室町時代の「石庭」の時間がもう終わってしまっていたので、また違う単元で紹介したいと思います。以前から紹介していますように、社会科では選択教材がたくさんあります。3年生は、今の時期、地域の農業か工業を取り上げます。自分の校区に田んぼや畑があり、農家の方にお話が伺えるようでしたら農業、反対に校区に工場があり、どのようにして商品が作られるのか取材ができそうでしたら工業を選ぶことになります。ただ、そうすると、教材はすべて教師が作成しなければなりません。どうしても地域での学習が難しい場合は、副読本では金時にんじんか生八つ橋を取り扱っているので、それを活用することが考えられます。

私が勤務している稲荷小学校の校区に農家はなく（多分）、3年生の児童が学習できそうな工場を探していました。そんな中、校区ではないのですが、学校から歩いて20分ぐらいのところに、こんにやく工場があるのを知りました。たまたま、本校のPTA 会長さんがそのこんにやく工場の社長さんと知り合いということで、取材や見学を快く引き受けていただきました。





これがこんにゃくいものレプリカ、模
型です。こんにゃくいものほとんどが
群馬県で作られています。



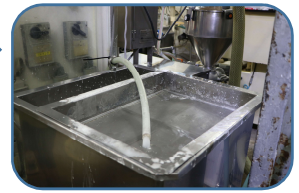
こんにゃくいもの粉を見せてもらって、どうしてこんにゃくができるのか
動画を使って説明していただきました。



子どもたちの前の大きな機械で、材料をかき混ぜます。ホッパーという名前です。



これで、こんにゃくの色をつけます。



この白い液体で、固めていきます。



完 成 ！

このように、こんにゃくの方法を知り、こんにゃくがどのようにして出来上がるかを学習しました。やはり、終末は、「こんにゃくづくり」にかけのおもいに触れたいところです。この社長さんは、命名を工夫しておられます。いたこんにゃくを「おいたさん」、いとこんにゃくを「おいとさん」京都らしいと思いませんかと言っておられました。その点も授業で触れていきたいですね。